

令和6年度 脇町中学校学校評価アンケート（生徒）結果から

令和7年2月実施

成果と課題

どの項目においても肯定的な回答が多くありましたが、否定的な回答もありました。アンケートの結果を受け、生徒一人一人の思いを大切にしながら、主体性を育てる学校づくりに取り組んでまいります。

○本年度は、脇町幼稚園・脇町小学校と連携してPBS「ポジティブ行動支援」に取り組みました。これは、教員が生徒に、また生徒が互いに、望ましい行動を促し認める取組です。望ましい行動をしたときにほめる等の声かけや、生徒会が望ましい行動の目標を設定するなどの取組を行いました。そこで、アンケートにも項目3「自分や友達のよいところを見つけている」と、項目4「ありがとう・ごめんなさいなどのあったか言葉が使えている」を加えたところ、それぞれ86%、93%の肯定的な回答がありました。次に、項目1「学校に来るのが楽しい」では86%の肯定的な回答があり、昨年度より7%増加しています。これは、PBSで取り組んできた効果が少しずつ出てきたとも考えていますが、今後検証を深めるとともに、より生徒が主体となり、互いを認め合い高め合うような取組を進めていきたいと考えています。

○項目5「積極的にタブレットPCを使って学習する」、項目6「話し合い活動やグループ学習に進んで取り組む」ではそれぞれ85%以上の肯定的な回答がありました。タブレットPCを効果的に活用したり、生徒同士が対話から学びを深めたりするなど、生徒の主体的な学びができるようになってきています。また、項目7「わからないことがあれば、先生に聞いたり、自分で調べたりした」については、29%の否定的な回答がありました。生徒の学習のつまずきに対しては、チームティーチング等、複数教員で授業を担当する体制をできる限りとってありますが、生徒が質問しやすい環境づくりに努めていきたいと考えています。

○項目8「相手の気持ちを考えて、まわりの人と生活することができた」、項目10「命の大切さや人権を大切にすることについて学ぶことができた」については、90%を超える生徒が肯定的な回答をしています。今年度は、様々な人権課題についてゲストティーチャーを招いて学習をしたり、行事等でも人権をテーマにして取り組んだりしてきました。生徒は、真剣に人権学習に取り組み、自分も周りの人も大切にすることを確実に育ってきています。

○項目 9 「自分やまわりの友達が困っていることを、先生やお家の人など、大人に相談することができた」については、否定的な回答が33%ありました。生活アンケートの回数や内容を改善することや、生徒が先生に相談しやすい関係を築ける取組を行うとともに、保護者方との連携を密にしていきたいと考えます。

○項目 12 「学校行事などに、友達と協力して取り組むことができた」については、91%が肯定的な回答をしています。生徒が楽しみにしている様々行事を通して、脇中生同士の輪が深まったり、人間的な成長につながったりするように取り組んでいきたいと考えます。

○項目 13 「委員会活動や学級の係の仕事など、自分がしなければいけないことができた」については、96%が肯定的な回答をしており、多くの生徒に、集団の一員として、自分の役割を果たそうとする責任感があることが表れています。この気持ちを大切に、生徒自身が人のために行動することで、自己有用感をもつことができる取組を進めてまいります。

○項目 14 「部活動に積極的に取り組んだ」については、85%が肯定的な回答をしていますが、昨年度より否定的回答が12%増加しています。全国的に部活動地域移行が進められており、本校でも本年度から部活動への参加を任意としました。そこで、部活動に参加してしていない生徒もいるため否定的な回答が増加したとも考えられます。来年度以降の部活動のあり方については、関係機関や保護者の方々と連携を密に取りながら、生徒が生き生きと活動でき、持続可能な部活動のあり方を検討していきたいと考えています。

○項目 15 「将来の夢や働き方について考えた」については、否定的な回答が33%ありました。本年度も市からの補助金を活用して様々な分野で活躍している方をお招きして話を聴いたり、地域の方々のご協力により職業体験や体験学習を行うなど、キャリア教育を充実することができ、生徒が自身の生き方について前向きに考える学習を行いました。今後は、本年度の取組を検証し、生徒自身が自らの生き方を考えることに結びつくよう系統的に指導計画をたてるなど、取組を再検証する必要があると考えています。